

(3) 中・晩生かんきつ類

ア 露地栽培

時期	対象病害虫 指定有害動物	防除法	注意事項
			○指定有害動物に指定されている対象病害虫については、千葉県総合防除計画も参照の上、防除を行う。 (https://www.pref.chiba.lg.jp/annou/shokubo/sougouboujyoiikeikaku.html)
収穫後 (2月下旬～3月上旬)	黒点病 ミカンハダニ カイガラムシ類	・枯枝の剪除 ・マシン油乳剤(97%)	○ 枯枝は伝染源となるので、剪除処分する。 ○ マシン油乳剤(97%)にはスピンドロン乳剤、トモノールS、ハーベストオイル、スプレーオイル、アタックオイルなどがある。 ○ 樹勢の弱い樹では使用を避ける。
発芽前 (3月中旬～下旬)	かいよう病	・Zボルドー 又はコサイド3000	○ 銅水和剤はマシン油乳剤、デランフロアブルとの近接散布による薬害が起こりやすいので、使用時期に注意する。 ○ レモンはそうか病に弱いので、4月中旬(新梢1cm目安)にマネージDF、5月下旬にデランフロアブルも併せて使用する。デランフロアブルはかぶれが問題となる場合があるので注意する。
5月中旬～下旬	かいよう病 黒点病	・コサイド3000 又はICボルドー66D(落花直後～梅雨期のみ)	○ 発芽期以降の銅水和剤の散布には、薬害軽減のためクレフノンを加用する。 ○ かいよう病の多発園では、6月中旬～8月中・下旬にも銅水和剤を更に2～3回散布する。防風対策を十分行う。 ○ アブラムシ類、ハマキムシ類等は発生に応じてオリオン水和剤40を使用する。但し、銅水和剤との近接散布は薬害の危険性があるので避ける。
6月中旬	黒点病 ミカンハダニ カイガラムシ類	・ジマンダイセン/ペンコゼブ水和剤 ・マシン油乳(97%)	○ 黒点病の防除から収穫まで90日以上確保できない場合は、ジマンダイセン/ペンコゼブ水和剤に代えてデランフロアブルを使用する(そうか病にも有効。デランフロアブルはかぶれが問題となる場合があるので注意する)。 ○ マシン油乳剤は薬害を避けるため、かいよう病や下記のウスカワマイマイの防除で使用する銅水和剤と近接しないよう注意する。 ○ ウスカワマイマイによる果実被害が多い場合は、摂食阻害効果のあるICボルドー66D(クレフノンを加用)を使用する。但し、殺虫効果はない。銅線や銅板を樹幹に巻くと、マイマイの登上进行を阻止できる。 ○ ゴマダラカミキリ成虫の発生がみられる場合は、ダントツ水溶剤を使用する。

時期	対象病虫害 指定有害動植物	防除法	注意事項
7月中旬	黒点病	・ジマンダイセン/ペンコゼブ水和剤	○ 黒点病の防除から収穫まで 90 日以上確保できない場合は、ジマンダイセン/ペンコゼブ水和剤に代えてフロンサイドSCを使用する（そうか病にも有効）。 ○ 黒点病は梅雨期の長雨に注意し、雨前に防除する。 ○ ミカンハダニの防除が必要な場合、カネマイトフロアブルを使用する。 ○ カイガラムシ類の発生が多いほ場では、モスピラン顆粒水溶剤を使用する。 ○ ミカンハモグリガは夏葉が展開し始める7月下旬～8月上旬、急に増加する。徒長枝は冬期に剪除してしまうので通常の発生では防除の必要はないが、激発した場合や高接ぎした場合及び幼木では、新葉展開初期から2回、ダントツ水溶剤により防除を行う。
8月中旬～下旬	黒点病 かいよう病	・コサイド3000	○ 銅水和剤の散布には、葉害軽減のためクレフノンを加用する。 ○ 黒点病は降雨に注意し、防除適期を逸しないようにする。8月に降雨がない場合は、黒点病の基幹防除を8月下旬～9月上旬に遅らせる。 ○ 台風前にかいよう病対策として薬剤を使用する。 ○ ヤノネカイガラムシの発生が多い場合にはモスピラン顆粒水溶剤を使用する。 ○ ミカンサビダニの発生が多い場合はサンマイト水和剤を使用する。
9月～10月	ミカンハダニ	・コロマイト水和剤 又はダニサラバフロアブル	○ この時期に多発するので発生初期の防除を徹底する。殺ダニ剤の収穫前使用日数に注意して使用する。

注)成園 10a 当たり散布量は 400～500ℓとする。

イ 施設栽培

時期	防除形態		対象病害虫	防除法	注意事項
	基幹	発生			
収穫後 (3月上旬)	基 1		かいよう病	・ 枯枝の剪除	
			ミカンハダニ カイガラムシ類	・ マシン油乳剤(97%)	○ マシン油乳剤(97%)にはスピンドロン乳剤、トモノールS、ハーベストオイル、スプレーオイル、アタックオイルなどがある。
開花期 (5月上旬)	基 2		コアオハナムグリ ミカンハダニ アブラムシ類	・ ロディー乳剤	○ かいよう病発生園では、ICボルドー66D(クレフノンを加量)を使用する。
果実肥大期 (6月中下旬)		発 1	ミカンハダニ カイガラムシ類	・ マシン油乳剤(97%)	○ 要防除水準: ミカンハダニは寄生葉率 20%、カイガラムシ類は寄生葉率 30%。 ○ かいよう病発生園ではICボルドー66D(クレフノンを加量)を使用する。
7月中旬		発 2	ミカンハモグリガ チャノキイロアザミウマ	・ モスピラン顆粒水溶剤	○ ミカンハモグリガは幼木園、チャノキイロアザミウマは例年被害が多発する園で防除を行う。
9月中旬	基 3		ミカンハダニ	・ コロマイト水和剤	
9月中下旬		発 3	ミカンハモグリガ チャノキイロアザミウマ	・ モスピラン顆粒水溶剤	○ ミカンハモグリガは幼木園、チャノキイロアザミウマは例年被害が多発する園で防除を行う。
10月中旬		発 4	ミカンハダニ	・ バロックフロアブル 又はダニコングフロアブル	○ 要防除水準: 寄生葉率 20%以上

注 1) 防除形態 基幹防除: 防除暦に基づく防除 発生防除: 発生予察、発生履歴に基づく防除

注 2) その他耕種的・物理的防除 かいよう病: かん水は茎葉部にかからないよう株元に行う。飛来害虫: 施設開口部に防虫ネットを展開する。(カメムシ類、大型チョウ目: 4mm 目合い、小型チョウ目: 1mm 目合い)

アブラムシ類、アザミウマ類: 春から夏にかけて施設内外の雑草に寄生、繁殖するので、除草等は場衛生を心がける。

農薬登録情報 (農薬名順)

- ・ [殺菌剤](#)
- ・ [殺虫剤](#)
- ・ [展着剤及びフェロモン剤](#)

農薬登録情報 (RAC コード順)

- ・ [殺菌剤](#)
- ・ [殺虫剤](#)
- ・ [展着剤及びフェロモン剤](#)